

《担当者名》 歯学部顎顔面口腔外科学分野 責任者 教授・口腔外科医長 / 永易 裕樹
 心理科学部指導責任者 教授 / 木下 憲治
 小児歯科学 教授 / 齊藤 正人 助教 / 山崎 敦永
 大学病院看護部長 / 横田 広子 歯科衛生士長 / 梶 美奈子

【概要】

- 1 口腔外科の見学・介助を通じて口腔外科疾患患者の診察・治療の系統を理解する。
- 2 専門的知識をふまえ、外科的処置を受ける患者の状況を把握し、コミュニケーションが計れる。
- 3 感染予防の重要性とその方法を理解する。
- 4 清潔、不潔区域の概念を理解する。
- 5 病棟における看護業務の見学を通し、医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を考える。
- 6 矯正治療の補助及び患者指導の技術を身につける。
- 7 障害者歯科診療あるいは摂食機能療法の実際を学ぶ。
- 8 小児の対応及び小児歯科診療の実際を学ぶ。

【学修目標】

- 1 患者さんとコミュニケーションがとれる。
- 2 患者さんを観察するための方法がわかる。
- 3 患者さんの療養上の問題を把握し解決のための行動がとれる。
- 4 清潔・不潔の概念を理解し滅菌物を正しく取り扱える。
- 5 口腔外科における診療の流れを理解し診療過程での役割がわかる。
- 6 常に自分の行動の目的を考え行った行動について評価し記録報告が出来る。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	スケジュール	実習第1日目 8:30~口腔外科・小児歯科・矯正歯科・一般外来等 各実習科にてオリエンテーションと実習 *一般外来はオリエンテーションはなし 第2日目以降 各実習科にて実習 口腔外科実習時に病棟での実習を行う 一般歯科での実習の中から一日訪問診療における実習を行う	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	外来実習	診察・処置の見学および診療介助を通して実習の内容を理解し、整理して臨床実習ケースとして実習帳に記載し検印を受ける。	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	1. 診断の方法	診断は情報の収集が基本となり、情報収集は次の手順(診察)により行われる。 1) 問診: 現病歴・既往歴等対話形式による患者側からの情報収集 2) 診査: 視診、触診、打診、簡単な道具などの理学的検査による情報収集 3) 臨床検査: 血液、尿、組織片、レントゲン写真、心電図などによる情報収集	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	2. 口腔外科処置と介助	処置の内容、それに必要な器具等の名称・使用法について理解し、準備・介助ができる。 1) 抜歯 2) 埋伏抜歯 3) 切開・排膿 4) 嚢胞摘出 5) 歯槽骨折手術 6) 軟組織の外傷	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		7) 口腔出血に対する止血法	
	3. 医療の持続性を理解する	1) 診療所から病院への情報伝達 2) 病院から診療所へ継続 3) 医療チームの連携	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	4. コミュニケーション	治療を進める際に患者と良好な人間関係を築くために必要な態度を身に付ける。 1) 挨拶をし、患者を安全に誘導する。 2) 共感的理解を示す態度ができる。 3) 患者情報を伝達できる。	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	オリエンテーション	・診察室内の見学と説明 ・手洗い、マスクの着用、服装について ・実習記録の書き方について	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	オリエンテーション 見学 病棟における看護業務の理解	病棟内オリエンテーション 病棟内設備、機器について 守秘義務について 挨拶、自己紹介 歯科処置室の見学	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	セクション間の連携	入院のながれを通し各セクション間の連携とコミュニケーションの必要性を学ぶ 入院まで (紹介) 口腔外科外来 麻酔科 処置室 入院受付 病棟 入院後 病棟 薬局、検査室、放射線科、医事課、会計 患者受け入れの準備 (室内の準備、記録物の準備) 患者へのオリエンテーション (「入院の案内」を通して)	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	コミュニケーション	患者基本情報の収集 ・患者とのコミュニケーションの基本 ・患者観察を通して ・バイタルサインの測定を通して カードックス内の記録を通して (記録、評価方法)	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子
	業務の経続性	継続して業務を行う大切さを学ぶ 術前、術後の継続性を学ぶ。 ・クリニカルパスの説明を通して 看護実践、記録、評価の過程を学ぶ。 ・クリニカルパス ・フォーカスチャータング 報告、連絡、相談 申し送りに参加する中で報告、連絡、相談がどのように行なわれているかを学ぶ。	永易 裕樹 木下 憲治 齊藤 正人 山崎 敦永 横田 広子 梶 美奈子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習ケースとして提出された実習帳の記載内容および口腔外科診療に対する理解度を基本として評価する。検討会の内容、実習に取り組む姿勢などを加味し、知識・技術、実習態度の観点より総合的に判定する。

【教科書】

「口腔外科学・歯科麻酔学（新歯科衛生士教本）」 医歯薬出版

【参考書】

「歯科衛生士のための看護学大意」全国私立歯科大学大学病院総看護婦長会編集 医歯薬出版

【学修の準備】

実習内容を理解したうえで、毎回の実習に臨むこと。